

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

がん医療情報提供・相談支援に関わる地域差と地域ニーズの検討

研究分担者 調 憲 群馬大学大学院肝胆膵外科・教授

研究要旨

本研究の目的はがん患者への情報提供・相談支援体制を効率化するために不可欠な人材の育成を通じて、相談支援・情報提供体制の在り方を考え療養を含めた地域情報づくりモデル等を提案することである。がん対策推進基本計画の重要施策の一つである「がんに関する相談支援と情報提供」においては、相談支援センターの拡充などで進んではいるものの、地方における患者の高齢独居者の増加の問題に対応すべき地域間格差や介護部門との連携に関する詳細な情報は存在しない。群馬県は少子高齢化がすすんだ過疎の地域を抱えており、全国の地方都市のモデル地区として有用と考えられる。地方においてはがん患者やその家族はがん治療に関する情報はもちろんのこと介護や療養に関する情報提供が重要になってくるものと考えられる。このような背景から院外にあって患者さんやその家族の声を傾聴し、相談支援センターに繋ぐ役割のナビゲーターの重要性は今後も増していくものと考えられる。本年度は、情報提供・相談支援のための人材育成に関する活動を行った。2015年に認定者が誕生して以来、全国の認定ナビゲーター（e-learning 修了）は374名、認定シニアナビゲーター（コミュニケーションスキルセミナー、実地見学修了）は79名認定された。本年度には調剤薬局の薬剤師を中心に認定者が急増しており、これらの人材が実際に患者さんと面談し、相談支援センターに繋ぐ役割を果たしていけるよう環境を整備していくことで、結果としてがん患者さんへのきめの細かい情報提供・相談支援体制を確立することが今後の重要な課題である。

A. 研究目的

1) 生活圏で異なる多様なニーズに対応し、求められるものへと正確につなぐ＜地域完結型情報提供・相談支援体制＞の確立を目指す。その前提として必要とされる「がんの情報提供や相談支援に関する地域のニーズや問題点」を明らかにする。とくに群馬県は少子高齢化の進んだ過疎地域を抱えており、その地域事情にそくしたがん医療に

関する情報の提供体制を構築する必要がある。

2) 地域の情報提供・相談支援体制とこれを補強する人材養成プログラムとを検証し、地域ニーズの抽出に基づく相談支援・情報提供体制の在り方、これを効率化する人材の育成と介入モデル、介護・療養を含めた地域情報提供モデル等を提案する。

B．研究方法

がん医療ネットワークナビゲーター(以下、がんナビと略す)養成プロジェクト(H26-がん政策-一般-007)でモデル事業の対象県である群馬県において、養成のためのシステム作りを模索し、さらに養成したがんナビの活躍の場を提供できる体制を構築する。

(倫理面への配慮)

本研究では介入試験は行わないが、モデル事業における評価は疫学研究の対象になると考えられ、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守してこれを行う。

C．研究結果

1) 群馬県におけるがん情報提供・相談支援に関わるがんナビの育成とフォローを行った。現在、群馬県で資格をとったがんナビのメンバーとメールで連絡しあえる体制をつくった。

2) がんナビの制度委員長としてがんナビの全国普及のために連絡を行った。2015年に認定者が誕生して以来、全国の認定ナビゲーター(e-learning 修了)は374名、認定シニアナビゲーター(コミュニケーションスキルセミナー、実地見学修了)は79名認定された。本年度には調剤薬局の薬剤師を中心に認定者が急増している。

癌治療学会におけるがんナビ養成のための多くの会議に出席し、意見を述べた。

D．考察

本研究の背景には、がん対策推進基本計画の重要施策の一つである「がんに関する相談支援と情報提供」は、がん相談支援セ

ンターの低い認知度、施設間や地域間格差などにより十分に機能していないとされる状況がある。現在のがん診療連携拠点病院における情報提供・相談支援に関わる人員配置の現実は年々高まるニーズに対応するには不十分であり、がん拠点病院からの周知活動にも限界がある。さらに群馬県における少子高齢化のすすんだ過疎地域ではがん患者の高齢化や独居など、特有の問題を抱えているものと考えられる。がん拠点病院からの物理的な距離のみならず、独居の高齢者や介護を要する高齢がん患者が適切な情報を得て、適切な福祉を享受することは容易ではない。

前年度に行われたアンケート調査では群馬県では居住介護支援事業所・ケアセンターからの回答が多く、この割合は全体や他の都道府県に比べても際立って高いものであった。前述のごとく、がん患者の高齢化や独居などの問題を抱える群馬県では、居住介護支援事業所・ケアセンターなどが、対応している可能性がある。さらにその情報提供のニーズの解析からがん患者の看取りの時期の支援のニーズが感じられる。

居住介護支援事業所・ケアセンターはがん患者に特化した施設ではなく、がん患者は通常の要介護の患者の中で介護を受けているもの推察される。したがって、今後がん診療連携拠点病院をはじめとした癌治療を行っている病院施設と居住介護支援事業所・ケアセンターなどとの連携が十分に行われているかを検証する必要がある。このような社会的背景の中で市井にあって活動を行うナビゲーターは重要な役割を担うる。

一方、群馬県のナビゲーターに対するヒアリングも行った。活動の場がないこと、ナビの社会的な認知度が低いために活動を行うことの困難についての意見があった。

適切ながんに関する情報を入手することを円滑に行うためには、市井にあってがんの情報提供や相談支援への手助けができる人材の育成が急務であり、この点に本研究の最大の意義がある。そのための活動は、地域間の大きな実情の差を考慮しながらも、全国展開をしていかなければならない。

がんの情報を適切に提供する上で、それぞれの地域に根差した活動が必要なことは論を待たない。群馬県のアンケートやインタビューによって、群馬県におけるがんの情報がどこで求められているのか、さらに連携を強化すべきところが明らかになってきた。

群馬県で育成したがんナビが群馬県で意義ある連携の活動ができるようさらに活動をすすめる予定である。

E . 結論

本研究の目的を達するためには、人材の育成とともにがん診療連携拠点病院との密接な連携が必要である。認定ナビゲーターはここにきてその数は急速に増加している。これらの人材を有効に活用し、がん患者さんへの情報提供・支援に結びつける社会活動とするためには、社会的な認知度の向上、がん診療拠点病院へのアピールなどの努力が必要である。地道な作業であっても、がん対策推進基本計画の達成のためには、本研究のような活動は継続していく必要があると考える。

F . 健康危険情報

なし

G . 研究発表

I 著書

なし

II 総説

1. Kubo N, Shirabe K. Treatment strategy for isolated bile leakage after hepatectomy: Literature review. *Ann Gastroenterol Surg*. 2019 Dec 5;4(1):47-55. doi: 10.1038/modpathol.3800383.

III 原著

1. Yamanaka T, Harimoto N, Yokobori T, Muranushi R, Hoshino K, Hagiwara K, Gantumur D, Handa T, Ishii N, Tsukagoshi M, Igarashi T, Tanaka H, Watanabe A, Kubo N, Araki K, Shirabe K. Nintedanib inhibits intrahepatic cholangiocarcinoma aggressiveness via suppression of cytokines extracted from activated cancer-associated fibroblasts. *Br J Cancer*. 2020 Feb 4. doi:10.1038/s41416-020-0744-7. Online ahead of print.
2. Igarashi T, Shimizu K, Usui K, Yokobori T, Ohtaki Y, Nakazawa S, Obayashi K, Yajima T, Nobusawa S, Ohkawa T, Katoh R, Motegi Y, Ogawa H, Harimoto N, Ichihara T, Mitani Y, Yokoo H, Mogi A, Shirabe K. Significance of RAS mutations in

- pulmonary metastases of patients with colorectal cancer. *Int J Clin Oncol*. 2019 Nov 26. doi: 10.1007/s10147-019-01582-z. Online ahead of print.
3. Kurozumi S, Inoue K, Matsumoto H, Fujii T, Horiguchi J, Oyama T, Kurosumi M, Shirabe K. Clinicopathological values of PD-L1 expression in HER2-positive breast cancer. *Sci Rep*. 2019 Nov 13;9(1):16662. doi: 10.1038/s41598-019-52944-6.
 4. Yokobori T, Yazawa S, Asao T, Nakazawa N, Mogi A, Sano R, Kuwano H, Kaira K, Shirabe K. Fucosylated 1-acid glycoprotein as a biomarker to predict prognosis following tumor immunotherapy of patients with lung cancer. *Sci Rep*. 2019 Oct 10;9(1):14503. doi: 10.1038/s41598-019-51021-2.
 5. Harimoto N, Hoshino K, Muranushi R, Hagiwara K, Yamanaka T, Ishii N, Tsukagoshi M, Igarashi T, Tanaka H, Watanabe A, Kubo N, Araki K, Hosouchi Y, Suzuki H, Arakawa K, Hirai K, Fukazawa T, Ikota H, Shirabe K. Prognostic significance of neutrophil-lymphocyte ratio in resectable pancreatic neuroendocrine tumors with special reference to tumor-associated macrophages. *Pancreatology*. 2019 Sep;19(6):897-902. doi: 10.1016/j.pan.2019.08.003. Epub 2019 Aug 7.
 6. Ishii N, Harimoto N, Araki K, Muranushi R, Hoshino K, Hagiwara K, Gantumur D, Yamanaka T, Tsukagoshi M, Igarashi T, Tanaka H, Watanabe A, Kubo N, Shirabe K. Preoperative Mac-2 binding protein glycosylation isomer level predicts postoperative ascites in patients with hepatic resection for hepatocellular carcinoma. *Hepatol Res*. 2019 Dec;49(12):1398-1405. doi: 10.1111/hepr.13412. Epub 2019 Aug 9.
 7. Kurozumi S, Joseph C, Sonbul S, Alsaeed S, Kariri Y, Aljohani A, Raafat S, Alsaleem M, Ogden A, Johnston SJ, Aleskandarany MA, Fujii T, Shirabe K, Caldas C, Ashankyty I, Dalton L, Ellis IO, Desmedt C, Green AR, Mongan NP, Rakha EA. A key genomic subtype associated with lymphovascular invasion in invasive breast cancer. *Br J Cancer*. 2019 Jun;120(12):1129-1136. doi: 10.1038/s41416-019-0486-6. Epub 2019 May 22.
- 症例報告
1. Igarashi T, Harimoto N, Matsumura N, Sugiyama M, Araki K, Yokobori T, Kosone T, Takagi H, Aishima S, Yokoo H, Shirabe K. Fairly rare small-diameter hepatocellular carcinoma with right adrenal gland metastasis having an inferior vena

cava tumor thrombus: a case report.
Surg Case Rep. 2019 Nov 6;5(1):170.
doi: 10.1186/s40792-019-0705-7.

May/Jun;48(5):e34-e35. doi:
10.1097/MPA.0000000000001286.

2. Igarashi T, Harimoto N, Nobusawa S, Yoshida Y, Yamanaka T, Hagiwara K, Hoshino K, Ishii N, Tsukagoshi M, Watanabe A, Kubo N, Araki K, Yokobori T, Yokoo H, Shirabe K. Evaluation of KRAS Mutation Status in a Patient With Concomitant Pancreatic Neuroendocrine Neoplasm and Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm. *Pancreas*. 2019

V 学会発表
なし

H . 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし